

令和4年度 体育科実践・研究計画

部 員	○佐藤 秀恒, 伊藤 敏幸
-----	---------------

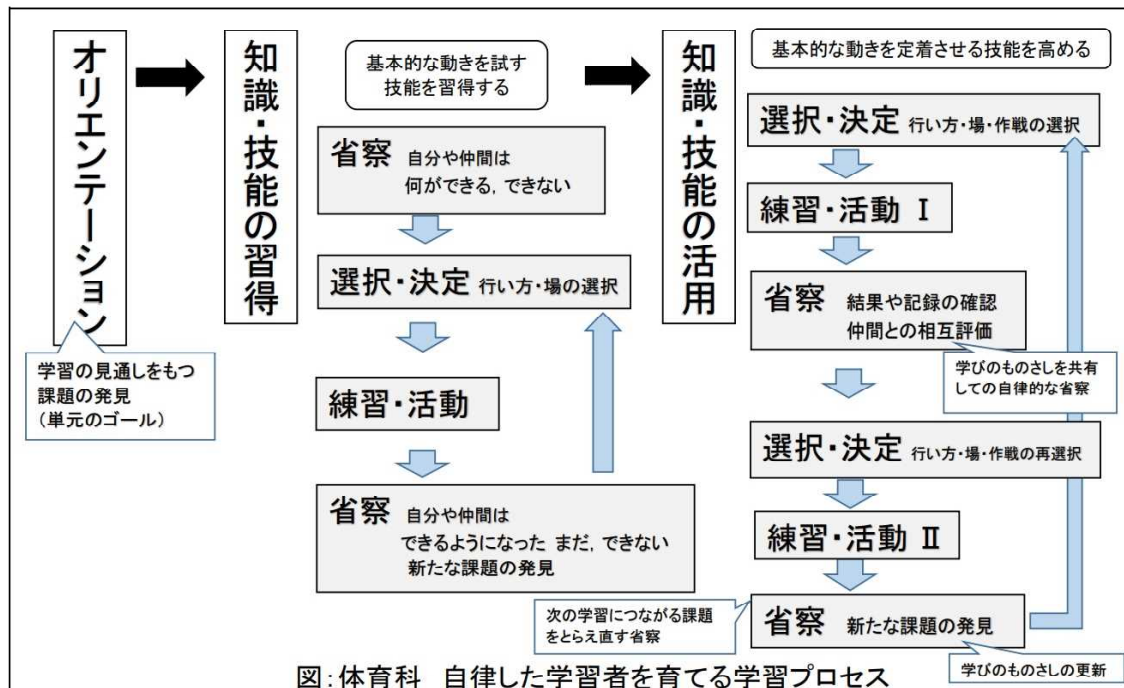
研究テーマ
自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす子どもを育む学び

1 研究テーマについて

心と体を一体として捉え、自分に合う動き方や健康的な過ごし方を考え試しながら、学びの成果と課題を見だし生涯にわたって運動に親しもうとしたり健康であり続けようとする力や力を高めていくところに教科の本質がある。そこで、仲間との協働的な学びを通して、心や体で感じた感覚と体の動きとを往還させながら、体育的な「見方・考え方」を働かせて課題を捉え直したり、動きの質を高めたりしする姿を期待し、「自他の心身と向き合い、考えながら動きを見いだす子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

体育科で目指す自律した子どもの姿

- ・自分や仲間の心身の現状から課題を見付け、自ら適切に解決しようとする姿
- ・今まきに行われる動きの中に共通点やこつを生かした動きとの相違点を見付け出す姿
- ・これまでに豊かにしてきた体育や保健の「見方・考え方」を意識しながら自覚的に働かせる姿



図：体育科 自立した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

運動を通して身に付けたことを次の課題へつないでいくための支援の工夫

- 動きのこつに着目して、課題解決に向けて選択・決定する学習過程を工夫する。また、仲間との関わりの中で活用する場を設定する。
- 発達段階を意識して、具体的な結果、モデリング、キーワード化して説明するなどの客観的な視点からの省察を行う。
- 学び方を積み重ねていくために、効果的だった練習や場の選択のよさを振り返ることができる場や対話を通してこつや作戦を再選択する場を設定する。
- 知識・技能の活用の段階で、動きのこつを選択して試し、見合った後でもう一度練習することで、新たな課題の発見にもつながるような「できた」「まだできていない」を実感できる場を設定し、自覚を促す。